

第17回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会会議録

- 1 会議名 第17回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会
- 2 開催日時 令和3年4月30日（金）午後3時から午後5時まで
- 3 開催場所 一関市役所特別会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 佐藤善仁委員長、齋藤清壽副委員長、千葉敏紀委員、小野寺愛人委員、千葉光祉委員、鈴木淳委員、菅原幹成委員、村上秀昭委員、千葉晃委員、菅原彰委員
 - (2) 事務局 小野寺啓事務局次長兼総務管理課長、吉田健総務管理課長補佐兼施設整備係長、石川勝志総務管理課主任主事
一般財団法人日本環境衛生センター4名（以下、日環センター）

5 議 事

- (1) 施設整備基本計画について
 - ① エネルギー回収型一般廃棄物処理施設
 - ア 焼却方式について
 - イ 自主基準値について
 - ウ 関連施設について
 - ② 最終処分場
 - ア 自主基準値について
- (2) 余熱活用ワーキンググループの進め方について

6 公開、非公開の別 非公開

7 協議内容

- (1) 施設整備基本計画について

事務局 本日は、エネルギー回収型一般廃棄物処理施設については委員会として焼却方式の採用案を決定いただきたい。事務局の焼却方式の採用案としては、ストーカ炉としている。

また、排ガスの自主基準値の資料について、前回いただいた意見を踏まえて修正した。本日は自主基準値案に対する意見をいただき、次回の5月25日に自主基準値案として取りまとめたい。

さらに、関連施設について施設ごとの検討項目を確認いただきたい。また、リサイクル施設の整備時期として、新処理施設と併せて整備することを想定して検討を進めるという案について記載を追加している。

最終処分場については、放流水質の自主基準値について、前回頂戴した意見を踏まえて修正した。自主基準値案に対して意見をいただき、次回に取りまとめた
い。

(資料No.1、2、3、4により説明)

委員長 焼却方式について、なぜ大東清掃センターでは流動床炉であったかという点については、ごみ質の割合として生ごみが多かったためということだが、ごみ質の割合として生ごみが多いと流動床炉を選択するという傾向があったのか。

日環センター 流動床炉は、中に入れた砂を浮遊させて燃焼させる。熱せられた砂にはかなりの熱の保有量がある。砂の持っている膨大な熱が作用するので、水分量の高い生ごみを燃やすには有利ということはある。

委員 燃焼方式の採用案の理由の記述に、「流動床炉に比べて電力消費量が少ないなど維持管理費においても優位であり」とある。ここでいう「など」は何を指しているのか。

事務局 具体的には薬品が大きい。

委員 資料No.1の焼却方式の採用案の理由だが、いずれの炉も安全性や性能、技術的には確立された処理方式であるというような記述があってもよいと思う。

また、ストーカ方式のほうが、住民にとってもごみの出し方の面で便利になるといったようなことがあれば、そのようなことも記述してはどうか。

日環センター 流動床炉は狭い投入口に押し込んでいくことになるので細かく破碎する必要があるが、ストーカ炉であってもごみは破碎されてよく混合されたほうが良い。ストーカ炉は投入口が若干広いので入れやすいということはあるが、住民のごみの出し方としては変わるものではない。

ただ、ストーカ炉が安定性があり確立された処理方式であるというご意見については、長年の実績もあり、確実に言えると思う。

委員長 資料の記述については事務局において精査をお願いしたいと思うが、当委員会としては、焼却方式はストーカ炉とする案としてよろしいか。

(異議なし)

委員長 異議がないことから、ストーカ炉に決定とする。

委員 資料No.2の表6について、盛岡・紫波地区環境施設組合のダイオキシン類の自主基準値が低い、理由がわかれば教えてほしい。また、二戸地区広域行政組合の排出基準値は10で間違いはないか。先ほどの説明では既存施設では平成14年12月1日以降は排出基準が5以下ということであったが。

事務局 盛岡・紫波地区環境施設組合のダイオキシン類の自主基準値の理由までは、相

手方に問い合わせをして確認はしていないが、ホームページ等にある情報では確認できなかった。二戸地区広域行政組合の排出基準値については、排出基準値は施設規模によって決まる値であり、既施設では2トン/h以下の場合には10以下が排出基準値となる。

委員長 先ほど焼却方式の採用案についてはストーカ炉となった。流動床炉である大東清掃センターが0.05ng-TEQ/m³_Nを達成できている理由は、バグフィルタでばいじん除去を行った後、活性炭吸着塔による処理を行っているためとある。今回は流動床炉ではなくストーカ炉とする案だが、その場合も同様のことが言えるのか。本日の案ではダイオキシン類の自主基準値案は0.1ng-TEQ/m³_Nとなっているが、ストーカ炉において0.1ng-TEQ/m³_Nを達成するためには活性炭吸着塔を設置せずともバグフィルタのみで達成できるのか。

日環センター ストーカ炉においてもバグフィルタのみで0.1ng-TEQ/m³_Nは達成可能と思う。ストーカ炉のほうがといったほうがいいかもしれない。安定した燃焼ということがダイオキシンの抑制には重要である。温度が上がったり下がったりする段階で、ダイオキシンが再合成されるが、ストーカ炉は安定しているため再合成されにくい。

また、環境白書の中で最新の技術を使えば達成可能な値として0.1ng-TEQ/m³_Nという値が示されている。それ以下の値について、専門家の間では、まだ公式的には示されていない。

委員長 1ng-TEQ/m³_Nを0.1ng-TEQ/m³_Nにする場合と、0.1ng-TEQ/m³_Nを0.05ng-TEQ/m³_Nにする場合の費用が分かれば教えて欲しい。

日環センター 1ng-TEQ/m³_Nを0.1ng-TEQ/m³_Nにする場合には、通常の運転で達成可能であるため追加の費用は発生しない。0.1ng-TEQ/m³_Nを0.05ng-TEQ/m³_Nにするとなると設備の追加が必要になる。

日環センター 住宅が密集しており規模の大きい東京都において、ダイオキシン類の自主基準値は0.1ng-TEQ/m³_Nを採用している。先ほど申し上げたように環境白書の中で最新の技術を使えば0.1ng-TEQ/m³_Nを達成することは可能であるということが出され、それ以上は出されていない。その趣旨を汲み取って0.1ng-TEQ/m³_Nとすべきだろうとなった。赤ちゃんや体が弱い方の安全率を考慮して一生摂取しても影響がないという数値として80ng-TEQ/m³_Nからスタートしており、最新の技術を使えば達成可能な数値が0.1ng-TEQ/m³_Nとされていること趣旨を踏まえて0.1ng-TEQ/m³_Nを採用している。

委員長 ダイオキシン以外のばいじん、窒素酸化物、塩化水素についても、排出基準値

よりも自主基準値の案は厳しい数値となっている。ばいじんや窒素酸化物や塩化水素の自主基準値案は、達成するために相当の費用がかかるのか。

日環センター この値であれば特別に厳しい値ではない。十分に法規制値から下げた値であるが、今日の技術であれば一般的な技術で対応可能であると思う。

委員長 ここで決めた値が建設費用及び維持管理費用に直結していく。我々は数値を単に厳しく出すということではなく、もっと費用を抑えて運転できて、さらにそれで安全を維持できるのであればそれを説明することが我々の仕事だと思うところであり、あえて質問した。

委員長 資料No.3の2ページにはリサイクル施設も新処理施設と同じスタートで整備していくとあるが、1ページに記載のある対象施設すべてについて新処理施設の整備と同時に検討をスタートするという想定か。余熱活用施設は内容もまだ何も決まっていないので、同時期に施設が整備になるかどうかはわからないものであるが、同じ時期にスタートする想定で作業を進めていくという理解でよいか。

事務局 そのように考える。

委員 プラスチック製品の資源化については、新たな制度が明らかになった時点であるが、まったく情報がないという状況なのか。

事務局 今年の3月に国から示された内容は、プラスチック製品はできるだけ使わないようにするということや、今までのプラスチック容器、包装と同様のルートで回収し、市町村が分別するという考え方が示された程度である。量や処理のルートはまだ具体的ではないが、プラスチック製品のリサイクルのルートは、今の容器包装リサイクルと同じようなルートというように示されている。

委員 現在、法案が衆議院で審議中であり、法案が通れば次の展開になると思われる。

事務局 施設を整備するにあたっては、配置計画を決める必要があり、試算もしたところである。既存のリサイクル施設2施設を残して新たにごみ処理施設のみを新設となると経費がかかり増しするので、リサイクル施設の整備の検討も同時スタートが良いだろうという考え方である。施設を整備するスケジュールのこともあり、今のうちに委員の皆様にご意見をいただくため提案した。

委員 プラスチックは嵩張るため、リサイクル施設ではプラスチック製品の回収にはかなりの大きなスペースが必要になるのではないかと。

事務局 今のプラスチックの容器や包装は資源物として集めており、ペットボトルはペットボトルで、トレーはトレーで集めているが、そのほかのプラスチック製品は不燃物として回収している。不燃物として回収しているものを今度は資源物として分別して出していただくことになる。今は、ペットボトルは圧縮、梱包して出

しているわけだが、おそらくそういったやり方になるかと思っている。

委員長 資料No.4について、費用と自主基準値との相関の話だが、最終処分場の放流水質の自主基準値案についても、新処理施設の排ガスの自主基準値案と同じように、達成のために特段に費用をかけなくても達成できるような数値なのか。

日環センター 現状とほぼ変わらない費用でできると思われる。

(2) 余熱活用ワーキンググループの進め方について

事務局 余熱活用ワーキンググループについては、4月27日に第1回目のワーキンググループを開催し、検討をいただいたので、その状況について報告する。

(資料No.5-1、5-2により説明)

委員長 ワーキンググループでの検討の内容は、この場でも報告する予定か。

事務局 検討状況はこの場で報告させていただく予定である。

担当課 総務管理課